

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	いじめ・不登校対策事業				担当部	教育委員会事務局					
	会計区分	一般会計		事業類型	一般	担当課	学校教育課					
	事業期間	平成12年度以前		～	平成30年度以降		担当係	学校教育係				
	総合計画分野別計画	主目的	3 教育・子育て		12 学校教育		3		教育力を向上し、調和のとれた人格形成を支援します			
		副目的										
	予算区分	款	10	項	1	目	3	大	4	中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市適応指導教室「カルミア」事業実施要項、小牧市適応指導教室「アイトワ」事業実施要項、学校カウンセラー派遣事業実施要項、不登校児童生徒訪問指導員派遣事業実施要項										
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	不登校児童生徒を苦しみから救うとともに、学校復帰のエネルギーを養うための支援を行い、学校生活への適応を図る。また、新たな不登校を生まないように、すべての児童生徒が充実した学校生活を送ることができるようにする。										
	内容 (手段)	<p>◆25年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室(2箇所「カルミア」「アイトワ」)の運営 何らかの心理的・情緒的な要因により学校に登校しない児童生徒、あるいは登校したくてもできない状態にある児童生徒を対象に、学校復帰に向けた、適切な指導・支援を行った。 ・学校カウンセラーの派遣 小中学校の教員、保護者、児童生徒を対象に、学校カウンセラーを派遣し相談業務をおこない、いじめや不登校などについて、専門的な立場から適切な指導助言を行った。 ・不登校児童生徒訪問指導員の派遣 学校と連携を図りながら不登校児童生徒の自宅を訪問し、指導や保護者との面談をおこなった。 ・心の教室相談員の配置 児童生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることのできる第三者的な存在である「心の教室相談員」を各小中学校に配置し、心を支える環境の整備を行った。 ・いじめ・不登校対策事業 不登校の原因や背景を理解し、関係機関等の連携のもとに組織的に対応することの重要性とその対応の在り方について、理解を深める。業務を、小牧市いじめ不登校対策連絡会へ委託し、いじめ・不登校対策関係機関会議、いじめ・不登校対策連絡会、適応指導教室・担任連絡会、講演会、研修等を行った。 ・適応指導教室連絡協議会への参加 全国適応指導教室連絡協議会、愛知県適応指導教室連絡協議会に参加し、日々対応に苦慮している指導方法や問題解決の参考とした。 <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>フレッシュフレンド・アイトワボランティア謝礼(297千円) 心の教室相談員謝礼(17,500千円) いじめ・不登校対策事業委託(270千円) 消耗品費(220千円) 通信運搬費(131千円) その他旅費・燃料費・食糧費・医薬材料費・保険料・テレビ放送受信料・美術館入場料・修繕料・事務機器借上料・研修会負担金等(178千円)</p> <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>フレッシュフレンド・アイトワボランティア謝礼(490千円) 心の教室相談員謝礼(17,500千円) いじめ・不登校対策事業委託(270千円) 消耗品費(153千円) 通信運搬費(87千円) その他旅費・燃料費・食糧費・医薬材料費・保険料・テレビ放送受信料・美術館入場料・修繕料・事務機器借上料・研修会負担金等(355千円)</p>										
	受益者負担	無										

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	18,923	18,801	18,596	18,855	
		正職員	従事者数	人	0.49	0.49	0.49	0.49
			人件費	千円	2,577	2,577	2,577	2,577
		その他職員	従事者数	人	4.40	4.40	4.40	4.40
			人件費	千円	27,248	27,941	28,056	28,858
	費用合計	千円	48,748	49,319	49,229	50,290		
対前年比	%			101.1	99.8	102.1		
財源	一般財源	千円	48,748	49,319	49,229	50,290		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	カルミア・アイトワ入室児童生徒数	人	目標	—	—	—
実績				39	36	28	
不登校児童生徒訪問回数		回	目標	—	—	—	—
			実績	105	157	184	
			目標				
			実績				
業	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	不登校者のうち、良い変化のあった者の割合	%	目標	50	55	55	—
実績			53.1	46.0	38.9		
目標							
実績							

事業の自己評価	事業の達成状況	学校カウンセラー・心の教室相談員による相談活動や不登校児童生徒訪問指導員による家庭訪問など学校復帰に向けた支援活動を行うことができた。また、カウンセリングを実施した際には担任とカウンセラーが打合せをする時間を設けた。	
	事業実施における課題	適応指導教室の入室者数は減少したが、新たな不登校がでてきているのも現状である。児童生徒を取り巻く環境は、入学(転入)や卒業(転出)等により変化しており、いじめ・不登校対策として、良い変化がみられた支援活動でも継続的に効果があるとは限らない。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	不登校児童生徒の学校復帰の機会が奪われるとともに、学校以外で教育を受ける機会も奪われる。	
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	児童生徒とのかかわりをさらに深め、個々に応じたきめ細かな対応をする。また、小牧警察署へいじめ・不登校対策関係機関会議への参加を依頼し、さらなる連携をはかる。
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持
	判定理由	不登校発生を抑制するために、不登校児童生徒の学校復帰に向けての支援活動や学校カウンセラーによる、児童生徒・保護者へのカウンセリング、心の安定をはかる心の教室相談員の支援を充実させながら進めていく必要があるため。	
	27年度以降の改善案	学校カウンセラーや心の教室相談員が、さらに児童生徒との関わりを深めるとともに、学校間での情報交換の場を設けていきたい。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。